

平成14年7月19日の第10回貨幣史研究会でのコメント(予定)

井上正夫

### 1 近年の貨幣史研究の動向

戦前には、貨幣史研究は意外に盛んでありましたが、1960年代から1980年代までは、全般としては、あまり活発ではなかったという印象があります。1990年代以降は、多くの研究成果が発表され、考古学の方面からも出土銭貨の整理・考察が積極的になされています。そうした研究動向の変化の先駆けとなったのは、東洋史から提出された足立論文であり、1990年代前半における日本中世史研究は大きな影響を受けたといえます。その後、大田論文によって、支払手段説には反論が示され、今日では、足立氏の支払手段説は急速に信認を失いつつあり、古代貨幣から中世貨幣への変遷を如何に理解するかについて、各研究者によってさまざまな模索がなされています。今回は、そうしたテーマに対する三上氏の報告であります。

### 2 三上氏の研究

これまでの三上氏の研究を発表論文から見てみますと、まず、700年前後の貨幣流通については、東国には布が西国では米が貨幣的に流通していた点を解明されております。また、奈良・平安時代において銅銭は交換手段として流通しており、人々の銅銭への理解自体は存在したという立場をとっておられるようです。10世紀以降については、古代政府は銅銭流通圏を平安京とその周辺でのみ維持しようという政策にかわり、銅銭の流通範囲は縮小したけれど、11世紀はじめころまで、民衆の中では銅銭が使用されたとしています。いずれの研究内容も、これまでの研究の中で十分には解明されていなかった点を、考古学的成果をも踏まえつつ、詳しく論証されております。

一方、氏の研究内容を現在の研究動向と比較しますと、特に7世紀後半から8世紀前半の国家貨幣の流通の問題について、これまでの貨幣史研究会での議論とは異なる理解を示しておられます。具体的には、これまでの研究会での議論は、(その参加者の構成上の理由で)当時の国家貨幣が交換手段であるという認識に進んでいるのに対して、三上氏は、「富本銭」「無文銀銭」に呪術性や権威の意味を強調しておられます。三上氏の研究全体からすれば、この特殊な貨幣の用法を強調する点は部分的なものにすぎないのですが、この点が、前回までの研究会の議論との決定的な違いとなっています。

### 3 今回の報告について

今回は、もともとのテーマが中世貨幣ですから、当然、2の700年前後の金属貨幣の問題よりも、10世紀前後から12世紀へ至る貨幣流通の変化について論じられましたが、私のみならず研究会出席者は、700年前後の問題に対する三上氏の把握について興味があると思います(もともと、それではいつまでも議論が中世へと進まないのですが)。それでもあえて700年前後から中世までの連続性の中で考えた場合には、やはり呪術とか権威とか特殊

な用法に起源を持つ「古代貨幣」が、その後の奈良平安時代の使用実績によって、人々に銅銭使用の理解をより深化させ、その後の銭出挙を介在として、中世の銅銭流通の基礎になったという理解であるように思えます。現在の通説は、特殊な支払手段として登場した銅銭が、その後の中で交換手段となり（栄原説）、中世への銅銭流通につながる（網野説）という理解であり、三上氏の理解もまた通説と共通するものがあり、ひとつの整合的把握方法として受け入れやすいと思います。井原説のように「銭貨を媒介にした恒常的で小規模な債務関係」が推定できれば、主張点はより説得性を持つはずで

また、「中世的貨幣」の特質としては、それが「民衆」により選択されたとする点は、今では桜井氏はじめ多くの人に主張され、史料上もそのとおりであり、十分首肯できます。中世貨幣の特質の1つとして、「民衆」が選択したという点があげられるのでしょうか。この点については、1の足立説は、宋銭流入に関しては、ようやく克服されつつあると感じました。

#### 4 討論者の立場

氏のこれまでの研究の方向との比較で、討論者（井上）の考えを述べますなら、まず、古代の銅銭流通の存在とか人々の貨幣理解という点自体については、ほぼ同意見であると思います。ただし、銅銭への理解とは、銭出挙が続いたから保持されたというのではなく、人間には、それくらいの理解は、実際の銅銭流通があろうがなかろうが、太古の昔からそなわっていたというのが、討論者（井上）の基本的主張であります（その意味で、やはり700年前後の国家貨幣は、重要な問題と考えています）。そのため、古代貨幣から中世貨幣への変化というのは、根本的にはそれほど違っておらず、ある貨幣から別の貨幣へと移る「契機」の方に、討論者の興味はあります。もともと、研究者によって着目点が異なるのは当然ですが、当時の史料に限りがある以上、異説との比較の上で、「全体としてより整合的だと思える把握方法」を提示・選択していこうと考えております。